

Clinical predictors of intracranial injuries in infants with minor head trauma

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-06-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大淵, 英徳 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032184

主論文の要約

Clinical predictors of intracranial injuries in infants with minor head
trauma

乳児軽症頭部外傷における頭蓋内出血の予測因子についての検討

東京女子医科大学東医療センター脳神経外科学教室

(指導：糟谷 英俊教授)

大淵 英徳

World Neurosurgery 98: 479-483, February 2017 に掲載

【目的】

乳児は、月齢により発達が大きく変化してくる段階である。乳児における軽症頭部外傷は主要疾患であるが、頭蓋内出血を来たす症例は稀であり時に機能予後に関わる場合がある。今回、我々は後方視的に乳児軽症頭部外傷における頭蓋内出血の予測因子について検討した。

【対象および方法】

2006年から2013年までに当施設に外来受診した0か月から11か月までの乳児549症例について、後方視的に医療記録と画像より頭蓋内出血有無について検討した。

【結果】

乳児549症例のうち15人に頭蓋内出血(3%)を認め、内訳は硬膜外血腫7例・外傷性くも膜下血種4例・硬膜下血腫3例・脳挫傷が1例であった。受傷機転で転落が最多であり、頭蓋内出血を認めたものは転落の高さ30cm以下が0例、30cmから60cm以下が1例、60cmより高いものが8例であった(P=0.0001)。皮下血腫の大きさ3cm以下が2例、3cmから6cm以下が10例、

6 cmより大きいものが1例と皮下血腫の大きさと頭蓋内出血において有意な相関を認めた ($P=0.0001$)。皮下血腫部位について前頭部が0例、側頭部が9例、頭頂部が2例、後頭部が2例と側頭部皮下血腫の存在は有意に頭蓋内血と相関を認めた ($P=0.0001$)。

多変量解析では、皮下血腫の存在は有意に頭蓋内出血と相関を認めた (hazard ratio=21.127, $P=0.0001$)。

【考 察】

乳児(0-11か月)による軽症頭部外傷は、これまで報告がほとんどない。我々は、皮下血腫の大きさと部位について検討したところ、3 cmより大きい皮下血腫は頭蓋内出血の有無と相関した。側頭部の頭蓋骨の中でも薄く、骨折になりやすく、頭蓋内出血ができやすいことが考えられた。受傷機転について、乳児の場合は両親の抱っこからの転落が最多であった。頭蓋内出血に対しての手術加療は2例のみと保存的加療を行うものがほとんどであり、全例予後良好であった。頭蓋内出血を来した症例のうち、2例は虐待が疑われる症例であり、虐待が疑われる場合は、頭部CT検査は必須と考えられた。頭部CT等の画像所見は、放射線の影響も考慮される検査であり、今回の我々の報告が頭部CT検査施行にあたるうえでの1つの指標になりえると考えられた。

【結 論】

乳児軽症頭部外傷について、転落の高さ、皮下血腫の大きさと部位は頭蓋内出血の予測因子となりえる。受傷機転についても両親の抱っこによる転落が多く、特に注意が必要である。これらの予測因子は、頭部CT検査施行の指標となりえる。